

7月定例教育委員会会議録

1、開会年月日 令和元年7月18日（木）

2、閉会年月日 令和元年7月18日（木）

3、出席委員氏名

田中 久善 西畑 敦司 名倉 幸子

西田 伊作

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

教 育 長 森 継 隆

事 務 局 長 木 村 昌 訓

事 務 局 次 長 青 木 仁

教 育 総 務 課 長 粕 谷 治

ま な び 推 進 課 長 高 山 仁

ま な び 推 進 課 付 課 長 山 村 結 紀 子

文 化 財 課 長 今 里 美 恵 子

教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長 西 田 智 也

図 書 館 長 森 田 三 喜 子

市 民 協 働 ・ 女 性 活 躍 推 進 課 長 石 原 康 司

教 育 総 務 課 庶 務 係 長 中 村 亨

5、会議に付した議案の件名

日程第1 教育長報告

日程第2 議題 第14号 天理市公民館審議会委員の委嘱
について(案)

第15号 天理市公民館分館規則の一部を改

正する規則について（案）

日程第 3 報告 6 月市議会定例会の報告について

6、会議の経過議題

開会 午前 9 時 0 0 分

終了 午前 9 時 4 5 分

1 教育長

皆様、おはようございます。

ただいまから7月定例教育委員会を開会いたします。

本日の署名委員は、田中委員と西畑委員にお願いします。

まず、最初に私からの報告です。

授業の見学にいくつか行かせてもらいましたので、それについて報告させてもらいます。

14日の前栽小学校と、授業ではないですが19日の奈良教育大学の教職員大学院の研究報告というものと、2日の中国の小学生が井戸堂小学校に来校ということと、あと櫛本小学校に行かせていただきました4点について説明させていただきます。

14日、前栽小学校で県の体育研究会があり、出席しました。2年生、4年生が体育実技の授業で、6年生が保健の授業ということでした。全てグループ学習、問題解決型の授業でした。2年生はトレーニングがテーマで、グループごとにトレーニングの目的を決め、自分たちでコースを設定し、トレーニングをしていました。私が受けた授業は、先生の指示で全て模範のものをやるということだったんですが、子どもたちが自分たちの判断で、いろんなことにトライしていました。その指示は、私たちの時代は笛だったのですが、今はタンバリンになっていて、BGMもゆずや星野源さんの曲が流れているというものでした。その中で子どもたちが楽しそうに、もちろん先生も楽しそうに授業をされておられました。4年生は表現の授業で、グループごとに指示されたものを体で表現するというものでした。僕が見学した際、授業では、こんなふうに揺らしていたのですけれども、それは何です

かと授業中に聞かせてもらおうと、海の中のウニだと答えてくれました。あとどうするのかなと思っていたら、先生が簡単な振り返りをされ、グループごとに表現を見せ合いして、それに対してコメントをして学んでおられました。次に6年生の保健の授業に行くと、受動喫煙がテーマで、グループ学習をし、最後にグループごとに発表をされていました。体育の授業で問題解決型の授業をされているというのは、意外だったのですが、10年ほど前から実施されているということで、グループ学習、問題解決学習を取り入れているということがよくわかりました。

次に19日は、奈良教育大学の教職員大学院の研究報告中間発表会でした。南中学校の先生が教職員大学院にいらっしゃるのですが、南中の不登校生徒の別室登校生徒の取組についての発表でした。別室登校用の教室の整備から始められたという話で、その教室のことをホッとルームという名前をつけ、時間割も自分で決め、その日の計画を自分で立ててやっているということですが、今は7、8人行っていますが、サツマイモを植えて、秋に収穫したらスイートポテトを作ってお世話になった先生にプレゼントしたいという目標の元 サツマイモの世話をしているとのことでした。自分たちでいろんなことを決め、自分たちで挑戦していこうということで、それを先生方が見守ってられるということでした。今週の火曜日、16日にはその子たちが、朝和保育園の職場体験に行って、保育士さんの体験をしていました。楽しそうに、園児たちと一緒に遊んでいました。将来的に子どもたちが、いろんな先生方の支援を受け、子どもたちがいろんなことを学び、子どもたちが自らの意思で、自分たちの教室に行こうと思ってくれるこ

とを信じたいです。

そして7月2日は、Shanghai Oriental Ladder Bilingual Schoolという上海のバイリンガルの学校で、小学校から中国語、英語、それともう1カ国語、選択で教えているという学校ですが、中国の小学1年生から3年生に在籍し、日本でいうところの2年生から4年生の年齢になる生徒が井戸堂小学校に来られました。1年生とは七夕飾りを作成するということでした。ササに飾りをつけて短冊を作っておられました。最初の交流会で上海の小学生で、日本でいえば4年生に当たる児童が、英語で代表してスピーチをしてくれました。

最後に7月10日、櫟本小学校に学習院大学の佐藤学先生という有名な先生が研究授業の講師として来校されました。私も先生と一緒に回らせて頂き、ほぼ全クラスの授業を見ることが出来ました。いわゆる「学び合い」という授業手法をされておられ、ほとんど全ての子どもたちが学びに参加していたと思います。低学年はペアワーク、高学年は4人のグループ学習をされていました。先生方も頑張ってくれていますし、子どもたちもそれに応えてくれていると思いました。

以上3点の報告ですが、何か御質問ございますか。よろしいでしょうか。

1 田中委員

2点よろしいですか。前栽小学校で実施されている問題解決学習というのは、天理市全域の学校での実施についてはどうなのかなというのが1点です。もう一点は、上海の小学生が、井戸堂小学校へ来られたということですが、今後他の学校へ行くケースもあり得るのかどうか。その2点についてお願いします。

1 教育長

体育の問題解決型学習は、他校で実施されているかどうかはわかりませんが、一斉授業だけではなくて、問題解決学習のほうに移行していこうという動きは、全ての学校であります。ただ、やはり最初のグループ学習だけに終わりがちなので、それは先生方が、これから研修を深めていかれて、良いグループ学習になるようにしていけると私は思っています。

それから、上海からの生徒の交流ですが、これは県の担当部署からの紹介依頼で、年に1校、2校ほどは必ず声をかけてくださいます。それで、学校に交流をする機会を出してもらっていて、去年は山の辺小学校、櫛本小学校に中国から交流に来られて、中学校は南中学校へバスケットの交流で来られていました。全て県からの紹介で来ていただきました。

1 田中委員

それは天理市に打診があつてということですか。それとも向こうから打診がありますか。

1 教育長

県から天理市を経由して打診があります。

1 田中委員

わかりました。できるだけ天理の多くの子どもたちに、そういう出会いや学びがあればいいなという思いがあつたので、聞かせていただきました。

1 教育長

よろしいでしょうか。

1 名倉委員

南中のホッとルームのことですが、大体 7～8 人が常に登校されているのですか。

1 教育長

常にではありませんし、日によって人数も変わります。

1 名倉委員

1 年から 3 年生の生徒が集まっているのですか。

1 教育長

2 年、3 年生です。これから 1 年も参加するかもしれませんが。

1 名倉委員

学習としては自主学習ですか、プリントとかをするような。ちょっと雰囲気聞かせていただきたいのですが。

1 教育長

そうです。プリントをすとか、空いた先生が来て勉強すとかはしてもらっています。

1 名倉委員

わかりました。自分の教室に戻る前段階として、本当にリラックスして楽しく学校生活を過ごすという意味でとても有意義な場所、居場所づくりに役立っていると思います。

1 教育長

担当の先生が、ホッとルームへ来ないかという手紙を保護者に渡した。初めは会えなかったのですが、渡しているうちに、会えるようになり、学校の別室に来るようになったという子もいるようです。先生方がいろんな取組をして、何人かは出てこられているということです。

ただ自教室には入れないですけれども。

1 名倉委員

わかりました。ありがとうございます。

1 教育長

よろしいですか。では次に行かせていただきます。

日程第2です。第14号 天理市公民館運営審議会委員の委嘱についての案を、市民協働・女性活躍推進課から説明をお願いします。

1 市民協働・女性活躍推進課

資料3ページ、議題第14号天理市公民館運営審議会委員の委嘱について（案）です。

先月6月の定例教育委員会において、議題第13号にて17名の委員の委嘱について御承認いただいたところですが、その時点では選出が遅れていました残りの1名について、生涯学習推進員連絡協議会から候補者の選出がありました。つきましては今般、議題第14号のとおり、委嘱案を上程するものです。委嘱する委員は、藤田覚さん、昭和7年10月22日生まれ、市生涯学習推進委員連絡協議会からの再任選出となっています。任期については、本日御承認いただきましたら、本日令和元年7月18日から令和3年7月17日までとなります。御審議よろしくをお願いします。

1 教育長

ただいまの説明について、何か質問ございますか。よろしいですか。

ないようですので、議題第14号 天理市公民館運営審議会委員の委嘱についての案を承認することとしました。

次に議題第15号 天理市立公民館分館規則の一部を改正する規則

についての案を、市民協働・女性活躍推進課から説明をお願いします。

1 市民協働・女性活躍推進課

よろしくお願いします。資料 5 ページです。

議題第 15 号 天理市立公民館分館規則の一部を改正する規則についての案です。

6 ページの改廃調書、7 ページの新旧対照表を併せてご覧ください。こちらは天理市立朝和公民館西長柄分館の所在地番について、地番の錯誤に伴い改正を行うものです。天理市立公民館分館規則の一部を次のように改正いたします。

第 1 条の表中、「天理市西長柄町 66 番地」を「天理市西長柄町 76 番地」に改めるものとなります。

附則としましては、この策定は公布の日から施行するものです。

1 教育長

説明がございましたが何か御質問はありませんか。

1 西畑委員

時々こういう地番の間違いが出てくるのですが、もう他にないですか。

1 市民協働・女性活躍推進課

この錯誤がわかったというのは、地元の地域の方からの申し入れがありまして、そこで初めてわかったということになっています。原因については、この公民館の規則を制定した時から、この地番になっておりまして、引き継ぎの時にどういう理由かわかりかねますが、66 番地という地番でこの規則が出来上がっておりまして、今後はないものとは考えていますけれども、昭和 40 年、50 年代のことですので、

その辺のいきさつがわかる者がいなくなっておりますので、今後とも注意は払っていききたいと思っております。

1 西畑委員

よろしくお願いします。

1 教育長

確認するのは難しいですか。

1 市民協働・女性活躍推進課

登記の確認ということで、少し時間をいただければ一つ一つ、分館を調べていくというのは可能です。

1 教育長

わかりました。

ほかによろしいですか。

では議題第15号 天理市立公民館分館規則の一部を改正する規則についての案を承認することといたします。

次に日程第3、報告に移ります。

6月市議会定例会の報告については、資料を事前に送付させていただいておりますので読み上げは省略させていただき、教育委員の皆様からの御質問をお受けさせていただきます。

何かございますか。どうぞ。

1 名倉委員

9ページの災害時の避難所のことですけれども、やはり災害経路とか避難訓練もそうなんですが、一番大事なのは教師の熟知というものかなと思ひまして、災害はやはり今の時代、あると思って過ごさなければいけないことだと思いますし、たとえば煙が上がっているところ

があって災害経路がその場所を通らないといけないとかいうこともあると思います。そこで必要なのはそのときの教師の機転と判断力ですね。教師の指導があって生徒たちは避難するわけですので、その教師の熟知度というのは、今どのような感じでしょうか。

1 教育長

まなび推進課長、お願いします。

1 まなび推進課長

熟知度といいますと、なかなか難しいですが、もちろん御存じのように、年3回避難訓練をさせていただいて、できるだけ安全に子どもたちを避難させるようにしています。火災、地震、不審者ということやってきているのですけれども、子どもたちにも、学級で指導してから訓練を行うか、逆にまた訓練を行った後に学級指導するというのをやっていますので、熟知度から言えば、先生方も熟知して指導していると考えています。

1 名倉委員

その点、何かあったときに、やはり教師の指導力というのが大事だと思いますので、また教師の方々にはくれぐれも伝えていただきたいなと思います。

あと一点ですけれども、17ページですけれども、ひきこもり・ニート対策のところ、子ども・若者支援てんりネットワークで、窓口だけでは対応できない事例について、21機関が集まることによるネットワークを活用してと載っております。相談窓口をたらい回しにされるということが一番、相談者にとっては精神的苦痛が大きいかなと思うのですけれども、この21機関の集まるネットワークというのは、

どういうふうに機能しているのか教えていただけませんか。

1 教育総合センター所長

「夢てんり」子ども・若者総合相談窓口がありまして、週1回火曜日、相談員が相談者の依頼を受けて相談にあたっています。ただ、就労支援であつたり、あるいは福祉の関係であつたり、どういったところにつないでいくのが一番いいかということについては、まずは代表者会議といって、それぞれの機関の代表者が集まる会議は年の最初と最後に1回ずつ合計2回あります。それから実務者会議といって、それぞれの関係機関、関係課、あるいは関係機関からの実務を担当していただいている方々が集まる会議があり、その中で事例検討会なり、あるいは、それぞれこういった相談を受けてこうつないでいったという事例を出したりしながら、話し合っていていただく場があつたりということで、実務担当者同士で情報共有をしたり話し合いをしているというネットワークですね。

1 名倉委員

そうしたら、相談者のその相談内容によって、必要関係機関に一応連絡をとって、その人の事例にあつた内容をみんなで話し合うといったことですか。

1 教育総合センター所長

つないでいける場合もありますし、なかなか本人が窓口に来られるというのが少ないです。家族の方であつたり支援者の方が来られたり、あるいは、地域で活動していただいている民生委員や、あるいは厚生助成会の方々の中で、そういった支援の方をつないでいただく例というものもあるのですけれども、そういった方の内容をもって、次はどこ

へつないでいったらいいのかということを考えていくわけですが、
も、一つの事例は解決して、一歩前に進み出す前に、かなり時間とい
ろんな配慮があったり、医療機関につないでいくのか、あるいは福祉
関連でも、どの課につないでいくのかということも含めて、相談しな
がらやっていっているというのが現状です。

1 名倉委員

わかりました。その「つなぐ」ということが機関として大切な役割
を果たしていると思いますので、また今後もぜひ、相談者の事例に対
して今までどおり真摯に向き合っていていただきたいと思います。

1 西田委員

9 ページの子どもの貧困対策ということで、その回答のあたり、居
場所づくりということがありますが、近年、朝御飯を地域あるいは学
校の家庭科教室などを会場に、食べる取組をされているというのを聞
くのですけれども、今年のこの夏に、何かそういうことがあるんでし
ょうか。もし、様子を聞かせていただけたらと思います。

1 教育長

一応聞かせていただいているのは、前栽校区で毎週水曜日※だった
と思いますけれども、ラジオ体操のあとで朝御飯を食べて宿題をする
というような取組をされます。（※毎週月曜日と水曜日に開催）

1 西田委員

それは天理市の中での動きですか。

1 教育長

いいえ、自主的なものです。

1 西田委員

わかりました。

1 教育長

他にありますか。どうぞ、お願いします。

1 西畑委員

同じく 9 ページのところですが、先ほどからお話に上がっています、災害時の避難所としての役割も果たす学校施設というところですね、衛生面というのはとても子どもの気持ちとして重要なことだと思います。櫛本小学校でトイレの掃除を徹底されたということですが、それが子どもの居心地のいい学校というところにつながるということで、16 ページにもそのようなお話が出ていますけれども、ホッとできる学校、魅力ある学校といったところにもつながってくると思います。意外とどこの小学校、中学校でもトイレの様子というのは案外整備されていないところが多いですので、この辺は先にできるだけ手をつけていただいて、衛生面はすごく子どもたちのストレスにもなってくると思いますので、そこら辺の配慮をお願いしたいと思います。

あともう一点ですが、10 ページですが、来年 4 月に向けてのコミュニティスクールのお話で、櫛本小学校をモデル校としてというお話ですけれども、櫛本小学校、いろいろなアイデアを出してくれていて、いろいろな取組をされていますけれども、個々のその、一つ一つのをまねするのではなくて、全体としてどうやってうまくいったかということが大事になってくると思います。情報の世界で、私は IT に仕事をしていますけれども、IT の世界でも今、課題解決型というよりも、付加価値型、価値創造型というシステム開発というような

のをされています。世の中で日本の国、世界中、みんなそうだと思うのですけれども、今世の中が価値創造型というふうに物事が動いていると思います。その中でITの話になって恐縮ですが、開発手法としてどんなリーダーが必要かという、やはりIT世界でもサーバントリーダーですね。スクラム手法というのがある、それがやっぱりそのリーダーというのはサーバントリーダーだと。やはり櫛本小学校で成功されたというのは、いつか校長先生が、サーバントリーダーって、本人がずっとおっしゃっていますけれども、サーバントリーダーとして一生懸命働かれたというところによることが多いかなと思います。今のまなび推進課に来ていただいている天羽先生ですね、校長先生でおられたころは、地域とのつながりというのを重視されていて、サーバントリーダーとして活躍されたという記憶もありますので、そういう点はやっぱり広めていただくのが、櫛本小学校をモデル校にするということも一ついいかなと思いますので、ちょっとそこら辺も考え合わせていただいて、個々のその小さい取組をまねするというような、それはやり方としては一つかもしれませんが、大きなところというのはやはり、そのリーダーのあり方、校長先生の活躍のされ方というところが大きいかなと思いますので、その辺も合わせて考えていただきたいなと思います。

1 教育長

やっぱり入りやすいのは個々の事例を実践していただいて、そこで必要性でこうつなげていかなければならないというもの、何か必要なものというのがある、価値観とかが変わっていくと思います。ですので、その考えはお伝えさせてもらいますけれども、全てが一斉にと

というのは、なかなか難しいかもしれません。まずはこうやってみて、
といったようになるかもしれません。

1 西畑委員

地域それぞれ特色というのもありますので、各校区の特色というの
もありますし、そのその区長会の方々の考えとかいうのもいろいろ
あって、取り組まれ方というのはさまざまになってくると思うのです
けれどもね。その校長先生の考え方の一つとして、やっぱりよく悩ん
でおられるのが、コミュニティスクールをつくるのに校長がリーダー
シップをとっていかないといけないということで悩まれる校長先生も
結構いらっしゃって、どうやってそのリーダーシップをとっていくか
というので悩まれているケースもありますよね。そのときに、ちょっ
と、こういう考え方もどうだというふうにやっていただくというのが今
後、一つのやり方と思います。

1 名倉委員

その校長先生のリーダーシップというのは、どういうふうに生かし
ていくという、決して表に立ち過ぎていけないし、そして教員をまと
めるという役割もありまして、校長先生と教頭は、進めていこうと思
っても、教員がやはり理解して協力しないと成し得ないことでもあり
ます。あと地域の協力というのは、意外と地域の協力は取りやすい、
横のつながりがあればある地域ほど、地域の協力は取りやすいと思
っています。ですので、校長先生のこの立ち位置の難しさというのは
確かにあるかなと思います。表に出過ぎては反発もあると思いますの
で、その辺のところを櫛本小学校の以前の校長先生はうまくしてい
かれたのかなという感想はもっています。

1 田中委員

校長の話なのか、それとも、今提案されている櫟本の実践を通して、コミュニティスクールをどうしていくのかという話がばらばらになっているけれども、その質問に対しては、櫟本がいろんなこういう形で取り組んできた。そのことの中に地域も含まれている。これをベースにして学校運営協議会、コミュニティスクールを提案しながら学んでいこうと、こういうことでいいんですか。なぜ櫟本かっていうことじゃないですね。

1 西畑委員

櫟本は成功している事例なので、モデルにするのはもちろんですが、その、櫟本モデル、櫟本モデルと言い過ぎて、櫟本の取組を一つ一つ全部まねしなさいになってしまうのは、ちょっと違うなと思っています。やっぱり先ほど申しましたように、地域のそれぞれの事情、特色というものがあるから、それを生かした形でというふうにすると一番、バランスを取っていきやすい、その中心になってやっていただくのはやっぱり校長先生であると。だからその校長先生の動き方というものをやっぱり、一度考えていただきたい。その地域と学校とをつなぐという、コミュニティスクールというのは、地域の中で学校をつくるということなので、校長先生の動き方を一度、伊勢先生にしっかり聞くなり、天羽先生も一生懸命していただいていますし、いろんなところでしっかりちょっと考えていただきたいなと思います。入りやすいのは一つ一つの事例からというのは確かにそうですが、それが一方で、それをやってうまくいく、いかないという話ではなくて、物事の進め方、進ませ方というところというのこそが大事と思い

ますけれども、どうでしょうか。

1 教育長

校長の、マネジメント力というのは、それは大事になってはいきま
すけれども、ただ伊勢先生は5年間という長いスパンを立てていてと
いうこともありますし、5年間やってもらったらいいいということにな
りますけれども、大体校長は2年、3年のサイクルなので、難しさ
というのは出てくるかなとか、同じ考え方をずっと踏襲できるのかなと
一つ感じていますね。それと、伊勢先生のことがあがっているけれど
も、校長マネジメントが必要ですけれど、やっぱりみんな、地域の方
も保護者の方も校長も職員も集まって、いい動きができて、いい集団
ができてということでやっていると思います。だからその良さは、校
長先生のサーバントリーダーということにしても、みんなで盛り立て
ていこうという気持ちを上げるために、さっきも少し言っていました
けれど、学校は何がしたいのか、どういうことをやろうとしているの
かということ、共有しなければならない。それが樺本の場合、共有
ができたのだと思う。子どもは地域で育てるということで、その共有
がね。手伝ってあげているとか、してあげているとか、だから先生が
…といったことにはならないように、お互いさまだとしていかないと
いけないと思います。だから、今は、私はまずは地域と学校が目標を
共有していくことだと思います。伊勢先生は、その共有するのに自転
車に乗っていろんなところに行って話をされていたということは聞いて
おりますけれども。いろんな校長の手法をもって、その自分のやり
たいこととか、地域の要望とか、それを話し合いして、まずは共有し
てもらおうと思いますけども。

1 田中委員

要は、学校は閉鎖的ではないと。だから地域にある学校じゃないかと。だから運営も含めて地域でやっていったらどうだと。だからそういう意味で学校が中心であるけれども、地域の人が入って、そして協力しながら子どもを育てていこうということをやっているのが櫟本だと思う。これは校長がどうか何も関係ないと思う。校長は当然その中心になって、何が問題点なのか、何が課題か、その課題を克服するため、どうしたらいいのか、地域に働きかけるとか、こういうことは当たり前に行っている話だから。そういうのを運営協議会がしっかり母体をつくって、いい先生を育てていくという、その中に校長がしっかりしたものをもっていただきたいと思います。これがコミュニティスクールだと思うんですよね。だからそれを櫟本小学校から学ぼうということで、いいんですよね。

1 教育長

はい。

1 田中委員

地域も共有化している。先生も共有化していく。そういう意味では櫟本はかなり進んでいる。この前も行ったときに、子どもが挨拶してくれるのが自然だったんです。あれはやっぱりすごいなと思うので、良い教育が行われていると思います。

1 名倉委員

今、教育長がおっしゃったように、その地域の子どもたちは、地域みんなで育てるという、そういう考えが櫟本、特に北部活性化プロジェクトの一応委員会、自分たちで立ち上げた会議ですけれども、その

中で、子どもたちを地域で育てる、樺本に育ってよかったなって思ってもらおう地域にしようというみんなの考え出てきてまして、それが、みんなを動かしたという、それが一番根源じゃないかと思います。もちろん校長先生の働きかけもされていると思うんですけども、校長先生は、小学校が落ちついてないと、やはりこの事業はうまくいかなかった、進んでいかなかったとおっしゃっていたこともあるので、やはり小学校の状況というのも大事ななと思っていますし、それと学校訪問で伺ったときに、単発的にまとまってはいないんですけども、樺本のような取組もすごくたくさんあったと思います。ですので、それぞれの取組をどう大きく広げいくかという、足がかりは皆、どの小学校でもついているかなと思いました。ですので、これからどう進めていかれるかというのは、小学校の状況や教員間の共有、地域の共有も大事ななと思いました。

1 教育長

いろいろな人が、活躍できて、いろいろな人と交流できるということが、本当にしていきたいことかなと思うんですけども。

1 田中委員

この件以外でいいですか。学校運営協議会というのは地域に生きる子どもたちをどう育てるのかという視点で、これは非常に大事なことでと思いますので、そういう意味で、このインクルーシブというのが大事だと思います。天理市はどうかかわからないけれども、私の経験では二つの極端な小学校がありました。子どもたちを小学校へ送り出すときに、つまり特別支援の必要な子供を送り出すときに、最初から「特別支援学級です」と言う先生、もしくは、この子は特別支援学

級できちっと育ててほしいなと思いながらいった時に、「いや、この子は、普通学級です」というような学校があった。もう一方同じケースで伝えていったときに、「お任せください、特別支援学級であっても、普通学級でもいいですよ。しっかりと私たち、個々をみますよ」という学校があったんですよね。その後の育ちを見ていくと、特別支援の必要な子が、ある5年生で、普通学級に入っていた。心配したので大丈夫ですかと聞いたら、ちゃんと子どもたちの中で関係作っていますよという話があったんです。こういう二つの小学校を経験したときに、天理市も後者の学校をきっと目指してられると思いますが、その点検も含めて、このインクルーシブをしていくことは、大事な事かなと思います。このような極端な例があったので、ぜひともお願いしたいと思います。

1 教育長

就学指導委員会もあり、先生方の研修も深めて取り組んでおられると思いますので。

1 田中委員

お願いしたいと思います。

1 教育長

ほか何か質問ございますか。よろしいですか。

それではこれをもちまして、本日の定例教育委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉会 午前 9時45分